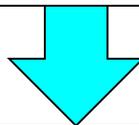


学校教育目標	
○自ら考え 正しく判断し 実践できる人	○自他を大切にし 社会に貢献できる人
○健やかで 人間性豊かな人	

令和5年度学校経営方針（学力向上に関わる要点）
<ul style="list-style-type: none"> ○学習指導要領を踏まえ、指導内容の見直しと指導と評価の一体化を図り、生徒の確かな学力の定着に努める。 ○個別最適な学びと協働的な学びのそれぞれを一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図り、一人ひとりの資質・能力が確実に育成できる教育を実現する。 ○カリキュラム・マネジメントの視点を生かし、生徒及び学校の実態に応じた授業の改善に努め、教育活動の充実を図る。

指導の重点（各教科）
<ul style="list-style-type: none"> ○各教科の目標及び学校の教育目標を達成するために、生徒一人ひとりに基礎・基本の定着を図り、思考力・判断力・表現力の育成を重視し、小グループによる討論やプレゼンテーション等の学習を通して、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進める。 ○生徒一人ひとりの意欲や能力の伸長を図り、学力向上を目指す。そのために「中野区学力にかかわる調査」の結果を踏まえ、指導と評価の一体化を工夫して授業改善プランに反映させる。 ○基礎的・基本的な知識・技能を習得させるために、ワークシート、レポート、ノートの書き方や活用の仕方等の指導を充実させる。また、学校の教育活動全体を通して、少人数やグループでの言語活動を充実させることにより、意図的・計画的に思考力、判断力・表現力等を育成する。

指導の重点（総合的な学習の時間）
<ul style="list-style-type: none"> ○総合的な学習の時間のねらいを踏まえ、課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現の探究プロセスを基に生徒一人ひとりの資質能力の向上を図るように各学年が創意工夫して取り組む。「よりよく生きる」をテーマとし、発信する力を言語により分析し、まとめたり表現したりする学習活動を行い、自らよりよい生き方に役立てようとする意欲や能力を育み、生きる力を育成する。



授業改善に向けた具体的方策		
基礎的・基本的な学習内容の定着	発展的な学習	指導と評価の一体化
<ul style="list-style-type: none"> ○ICT機器やiPadを効果的に活用して、生徒の興味関心を引き出す授業を実現する。 ○講義型授業からの脱却。教師が話しすぎ、教えすぎない、生徒に考えさせる授業を実現する。 ○「聞く」「書く」以外の学習活動を増やすことと、主体的に学習に取り組むための工夫を行う。 ○任短教員を活用し、週2回放課後学習教室を開き、基礎・基本の定着を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○一人1台端末を活用し、Qubena(キュビナ)、navima(ナビマ)によるICT機器を用いた学習を全校体制で取り組む。さらに、家庭学習等、生徒に意欲的に学習に取り組ませることで「自ら学習する力や考える力」を身に付けさせるよう継続的に指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図る。
「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実	ユニバーサルデザイン、合理的配慮	家庭・地域との連携
<ul style="list-style-type: none"> ○学習内容を確実に身につけることができるよう、生徒の実態に応じ、学習の見直しをもたせ、多様な選択肢から自己決定し、学びを振り返って調整する学習を実現していく。生徒一人ひとりの学びを保証し、オープンエンドにならないような指導を継続していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習目標、学習活動、授業内評価を明確にすることで、見直しをもって授業を受けられるようにするとともに指導と評価の一体化を図り、学習意欲の向上に繋げる。また、一人ひとりの状態に応じた教材等の確保。(デジタル教材、ICT機器等の利用) 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域資源の活用や家庭および関係諸機関との情報共有により、開かれた学校づくりを進める。授業と家庭学習を連携させた新しい学習を定着させることで、個別最適化された学びを実現させる。

2 各教科における授業改善プラン

(1) 国語科

【中学校】

国語科における指導の重点

- ノートやワークシートを活用した書く力の育成に加え、漢字ドリルや小テスト等を通じて、基礎的・基本的な知識・技能の定着を目指す。
- 授業中のさまざまな場面で、ペア活動や、グループ活動、プレゼンテーション等の機会を設け、言語活動を充実させることで、思考力・判断力・表現力の育成を図る。
- 情報を収集してまとめる活動や、家庭学習等に一人1台端末を活用し、自ら考える力や主体的に学習する態度を育成する。

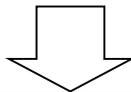
現状分析

区学力調査の結果分析

- 全学年達成率が7割を超えており、基礎的・基本的な学力は定着できていることが分かる。教科全体の正答率と目標値を比較すると、1年生は4.2ポイント、2年生は6ポイント、3年生は3.7ポイント上回っており、全体的な理解はできていると言える。領域・観点別の正答率において、2年生は全領域・全観点で目標値を上回った。一方で、我が国の言語文化に関する事項の領域では、1年生が1.5ポイント、3年生が2.5ポイント目標値を下回った。また、3年生の主体的に取り組む態度の観点では目標値を1.5ポイント下回っており、内容によっては課題が見られた。

教科指導上の課題

- 我が国の言語文化に関する事項に関して、古典文学の基礎知識を再確認し、古典に親しみながら知識の定着につなげていく必要がある。(1、3年)
- 言葉の特徴や使い方に関する事項に関して、話し言葉や書き言葉、漢字の知識の定着を図る必要がある。(2年)
- 「C 読むこと」に関して、物語の展開の仕方や場面と描写を結びつけて内容を読み取る力の涵養を図る必要がある。(2年)
- 主体的に取り組む態度の育成に向け、国語に対する興味・関心を育む授業を展開していく必要がある。(3年生)



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1年生	<ul style="list-style-type: none"> ○一人1台端末でデジタル教材Qubenaを単元毎の漢字学習で利用。また定期試験前に該当範囲をQubena漢字・文法のワークブックで編集、配信して利用。また小学校中学年以降の漢字学習をすすめる。 ○資料提供、思考の整理、話し合いや意見共有の記録としてGoogle Classroomを活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○中野区学力検査結果から「我が国の言語文化に関する事項」が唯一目標値を下回っている。漢字が書けても意味と結びついていない、文章中の展開や場面の読み取りと表現が結びついていないと考えられる。単元毎に語彙を増やしながら、言葉と場面を結びつけ、短文で書いて活用する練習を取り入れていく。
2年生	<ul style="list-style-type: none"> ○それぞれの学習において、まず個人の考えをもち、ペアやグループで共有・検討する活動を通してさまざまな視点から考えを広げる「協働的な学び」につなげる。 ○段階別の学習課題や学習活動を設定し、自分で自分に合った学習活動を選び、調整しながら学習に取り組む機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭学習として漢字ドリルを取り入れ、週に一度授業時に漢字の小テストを行うことで知識の定着を図る。定着が不十分な場合は適宜再テスト等を行い定着を図る。 ○一人1台端末やICT教材を活用し、新出語句や慣用句の確認を行うとともに、実際に使用する機会を設けることで、実用的な語彙の獲得を目指す。
3年生	<ul style="list-style-type: none"> ○さまざまな学習において、まず個人で自分の意見を考え、ペアやグループで共有・検討し、改めて個人で考え直す、という流れを定着させ、主体的・対話的で深い学びにつながる機会を多く設ける。 ○ワークシートでの振り返りや、一人1台端末を活用した基礎的な知識の確認など、生徒の実態に合わせた学習ができる環境を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭学習として漢字ドリルを取り入れ、週に一度、授業時に漢字の小テストを行い、知識が定着しているかの確認の機会とする。定着が不十分な生徒に関しては再テスト等で、知識の定着を目指す。 ○新出単語や慣用句などは、単元ごとに意味調べのワークシートを用意し、一人1台端末などを活用して、自分の力で語彙を増やしていくようにする。

(2) 社会科

【中学校】

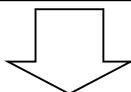
社会科における指導の重点

- 地理的分野、歴史的分野、公民的分野の具体的な事象に関する学習を進めていく中で、一般的な知識へとつなげていき、学習したことを活用して考えられる力を身に付けさせる。
- 個別の知識としての学習でとどめず、生徒自身の生活や現在の社会的課題とのつながりを意識させ、生活している場所や時代は違えど「自分だったらどうするか」という視点をもって、自分の考えをもつよう促していく。

現状分析

教科指導上の課題

- 知識としての正答を導き出すだけでなく、課題に対する自分の考えを表現するよさを味わえるようにするため、グループによる協働学習で、互いの意見を尊重し、考えを述べやすい雰囲気づくりをする必要がある。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1年生	<ul style="list-style-type: none">○单元ごとに学習テーマを設定し、個別で調べ学習を行わせたくて少人数グループによる協働学習を行わせる。さらに、個人の振り返りとしてレポートに取り組みさせることで、生徒の思考力・判断力・表現力を伸ばさせる。○一人1台端末を活用して、Qubena (キュビナ) や navima (ナビマ) による生徒の学習状況に応じた自由進度学習を実践する。	<ul style="list-style-type: none">○授業開始時に、毎回、前時の学習内容についての質問を行い、様々な生徒に答えさせることで、基礎的・基本的な知識の定着を図られているかを確認する。生徒の習得状況に応じて、補充的な説明を行う。○習得した基礎的・基本的な学習内容を次の学習単元で生かせるように、学習テーマの設定を工夫する。
2年生	<ul style="list-style-type: none">○地理的分野で、地域ごとにテーマや学ぶことを明示し、一人1台端末を活用して資料を収集し、自分の考えや意見をまとめ、順序立てて発表する力をつけさせる。その際、自分の考えを広げ、深めさせるために、「個→集団→個」の流れを重視し、互いに学び合う姿勢をつける。○歴史分野で、一人ひとりの生徒の興味・関心と習熟度に応じた課題を持たせ、「ハガキ新聞」を活用して、短い字数で自分の考えや意見をまとめる力を育てる。	<ul style="list-style-type: none">○歴史の学習では、小学校での学習を復習して、見通しをもたせて授業に臨ませ、理解を深めさせる。○地理・歴史分野共に、資料を読み取る際の視点などを示唆し、自分の考えや意見を持てるように指導する。○授業における学びに止まらず、家庭学習において授業での学習を深めるために、ノートを整理し補充する取り組みを進める。
3年生	<ul style="list-style-type: none">○学習のまとめりごとに学習課題を設定し、生徒が各自の視点やアプローチの仕方で、課題解決に向けた学習に取り組めるようにする。○学習単元振り返りシートに記入させることで、生徒が自らの学習の過程と成果を振り返ることができるようにする。○小グループ内で生徒が各自の課題解決に向けた取組を説明することで、新たな課題を発見し、他者の意見も取り入れながらグループとして課題解決へ向かえるような協働学習を行う。	<ul style="list-style-type: none">○一人1台のタブレット端末やAIドリル等のデジタル教材を活用して、生徒が自らの習得状況に応じた復習をすることができるようにする。○生徒が各自の学習のタイミングでデジタル教科書やNHK for school等の動画を活用しながら予習・復習することができるように、つまづきが起こりやすいところに解説動画等のリンクを用意する。

(3) 数学科

【中学校】

数学科における指導の重点

- 少人数・習熟度別指導の効果的な実施や、昼休み及び放課後の質問教室を通して、生徒一人ひとりに基礎的・基本的な知識・技能の定着を目指す。また、授業内での対話的な協働学習による学びの機会を大切にし、数学的な思考力・判断力・表現力の育成を図る。
- 主体的に学ぶ態度の育成を目指し、毎回の授業や定期試験後の振り返り活動を大切にすることで、生徒が自分自身の学習状況を正しく理解し、学習の自己調整をする機会を設け、学力向上に関する継続的なサイクル確立を目指す。

現状分析

区学力調査の結果分析

- 3学年中2学年で達成率7割を超えている。領域別にみると1年生「変化と関係」の達成率が低く、課題があることが分かる。領域別・観点別の正答率と目標値との差について分析すると、2年生は平均12%程度、3年生は平均6%程度上回り、全ての内容についておおむね理解できていると言える。一方で、1年生は平均1%程度の上回りに留まり、「数と計算」の領域では目標値を0.3%下回るなど、内容によっては課題のあるものが見られた。

教科指導上の課題

- 「小数・分数の計算」や「百分率」の計算で目標値を大きく下回る結果となったため、小数や分数、割合など、自然数や整数でない数の計算や概念について、指導を充実させる必要がある。(1年生)
- 「場合の数」、「代表値」、「箱ひげ図」など、データの活用の問題に課題が見られたため、知識・技能の定着や思考力・判断力・表現力を高める指導内容の工夫・改善をしていく必要がある。

授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1年生	○学習内容の振り返りをする時間を設け、個別に理解を深めたり、自身の学習状況の振り返りを行ったりする機会を設定する。また、授業の中で小集団活動を積極的に取り入れ、自分の考えを発信したり、様々な考え方に触れたりする機会を作り、多くの考え方や活用方法を学び、思考力を育成していく。さらに、電子黒板を用いるなど、課題の提示の仕方にも工夫を取り入れる。	○毎回の授業時に、基本計算の確認プリントを取り入れ定期的に小テストを行うことで、基礎的・基本的な内容の定着を図ると共に、自身の学習の理解度について、学びの自己調整を図る機会を設定していく。また、小テストにおいて、基準に達しない生徒には補充学習を行い、基礎的・基本的な内容の定着を個別にはかっていく。
2年生	○既習事項や前時の内容と絡めながら、新たな課題に対して、自力解決を促す指導を行う。協働学習での課題解決を通して、様々な考え方に触れる機会を作り、自身の学習状況の振り返りを行う機会を設定する。解法の思考が複雑なものについては、練習課題や解説用の動画を作成し、一人1台端末を活用して自由に振り返りを行う環境を整備し、個別最適な学びの場を構築する。	○毎回の授業時に、基本計算の確認プリントを取り入れ、定期的に小テストを行うことで、基礎的・基本的な内容の定着を図ると共に、自身の学習の理解度について、学びの自己調整を図る機会を設定していく。また、定期試験後には振り返りの時間を必ず設定し、うまく定着していない学習内容について、理解を深めるための時間を設定していく。生徒自身の振り返りの様子を通して、教員の指導内容の再検討の材料にし、指導力の向上を図る。
3年生	○既習事項や前時の内容と絡めながら、新たな課題に対して、自力解決を促す指導を行う。協働学習での課題解決を通して、様々な考え方に触れる機会を作り、自身の学習状況の振り返りを行う機会を設定する。AIドリルを活用して自由に振り返りを行う環境を整備し、個別最適な学びの場を構築する。	○毎回の授業時に、基本計算の確認プリントを取り入れ定期的に小テストを行うことで、基礎的・基本的な内容の定着を図ると共に、自身の学習の理解度について、学びの自己調整を図る機会を設定していく。また、小テストにおいて、基準に達しない生徒には補充学習を行い、基礎的・基本的な内容の定着を個別にはかっていく。また、AIドリルを活用し、できていない分野の問題を行っていく。

(4) 理科

【中学校】

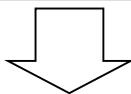
理科における指導の重点

- 生徒が実験や観察など実際に体験する機会を多く設定し、理科への興味・関心をもたせる工夫をする。また、授業でのグループ活動を実験の考察やまとめの時間に行うなど、生徒が主体的に活動する機会を増やし、生徒の思考力・判断力・表現力等を育成する。
- Qubenaなどの学習サイトの利用やClassroomでの課題配信など一人1台端末を活用し、生徒が主体的に学習に取り組むことで、自ら学習する力や考える力を身につけさせる指導を行う。

現状分析

教科指導上の課題

- データから読み取り考察してまとめる力に課題が見られたため、授業での自分の意見をまとめたり発表したりする力を育成する指導をする必要がある。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1年生	<ul style="list-style-type: none">○一人一台端末を活用し、Qubenaやnavimaを用いて個別的な学習を行い、各生徒の学習状況を把握して一人ひとりにあった学習を行う。○考察や考えを個人で考えた後、グループ内で共有する時間を設け、協働的な学習を行わせる。その中で、思考力や表現力をのばしていく。	<ul style="list-style-type: none">○单元ごとに定着を図るためにドリルを繰り返し実施させる。○授業内で、生徒の知識や理解度を確認し、状況に応じて補足説明を行うことなど、授業展開を考えていく。
2年生	<ul style="list-style-type: none">○Qubenaなどを活用し、自ら自由に振り返り学習するように指導する。また、既習事項を用いて実験の考察やまとめを行い、グループ活動で考え方を共有させることで、協働的に授業を理解する環境を授業で設ける。	<ul style="list-style-type: none">○授業の導入では、生徒に発問する形で前時の振り返りを行い、授業のつながりを意識させて授業を進める。また、授業内では自分の意見を書く時間と意見共有を行う時間を多く取り入れ、生徒が主体的に活動する時間を繰り返し行う。
3年生	<ul style="list-style-type: none">○授業での演習を繰り返し行い、学習の定着状況を自分で確認し、一人ひとりが自分のペースに合わせた学習ができるようにする。また、実験の授業を中心として、グループで実験の結果を予想させたり考察を行ったりする活動を繰り返し、協働的な学習を行う機会を増やす。	<ul style="list-style-type: none">○QubenaやnavimaなどのAIドリルの活用やワークや章末問題を解くなどの演習を单元ごとに行い、基礎・基本の学習の定着をはかる。また、授業内での発問を通し、クラスの生徒の学習状況を把握し、必要に応じて授業内での復習を行ったりして、授業展開を生徒に合わせて行う。

(5) 音楽科

【中学校】

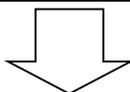
音楽科における指導の重点

- 各教科の目標及び学校の教育目標を達成するために、生徒一人ひとりに基礎・基本の定着を図り、思考力・判断力・表現力の育成を重視し、全員で一つの楽曲を作ることで、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進める。
- 生徒一人ひとりの意欲や能力の伸長を図り、学力向上を目指す。
- 基礎的・基本的な知識・技能を習得させるために、ワークシート、レポート、ワークの書き方や活用の仕方等の指導を充実させる。また、学校の教育活動全体を通して、少人数やグループでの表現活動を充実させることにより、意図的・計画的に思考力、判断力・表現力等を育成する。

現状分析

教科指導上の課題

- 音楽を楽しんでおり、指示されたことに対して意欲的に取り組もうとする。ただ、男子生徒に変声前、変声中、変声後が混在しパート分けにも苦慮している。この変声期に合唱が苦痛、嫌いとならないように指導を工夫する必要がある。(1年生)
- 授業に意欲的に取りくんでいる生徒が多く、パートリーダーが、練習の中心となり練習を進めている。工夫した歌唱表現にも興味をもち、話をよく聞き様々な歌唱表現に挑戦している。(2年生)
- 全体的に落ち着きがなく、話を聞くことが苦手である。歌うことは好きで、どの曲もしっかり声をだし、歌うことができる。身体全体を使って、最上級生としての自覚とプライドをもち、堂々とした歌唱をすることができるよう指導していく。(3年生)



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1年生	<ul style="list-style-type: none"> ○正しい発声、発音、身体の使い方を身に付けさせる。 ○iPadも利用しながら、歌っている様子を客観的に見られるように映像に録画したり、合唱曲のパート別音源なども活用し、速度や旋律、テクスチャ、強弱、構成など音楽を形作る様々なものに目を向けさせたりと、自ら表現の工夫ができるように考えさせる。 ○それぞれのパートの小集団の中で、楽曲について個で行った分析を共有し、どのように表現したら良いかを話し合う。それぞれのパートから、学級全体に広げ、楽曲を創り上げていく達成感を味わえるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○楽譜の読み取りができるようにし、作詞、作曲者の意図を楽譜から理解できるようにする。 ○楽曲について考えた表現方法について、実際にできる技術を身に付けられるようにする。
2年生	<ul style="list-style-type: none"> ○歌うときの身体の使い方を向上させ、良い発声で歌えるようにする。 ○iPadも利用しながら、歌っている様子を客観的に見られるように映像に録画したり、合唱曲のパート別音源なども活用し、速度や旋律、テクスチャ、強弱、構成など音楽を形作る様々なものに目を向けさせたりと、自ら表現の工夫を考え、実践できるようにする。 ○それぞれのパートの小集団の中で、楽曲について個で行った分析を共有し、どのように表現したら良いかを話し合う。それぞれのパートから、学級全体に広げ、楽曲を創り上げていく達成感を味わえるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○楽譜の読み取りができるようにし、作詞、作曲者の意図を楽譜から理解できるようにするとともに、音楽用語についての理解を深める。 ○楽曲について考えた表現方法について、実際にできる技術を身に付けられるようにする。

<p>3年生</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○歌うときの身体の使い方を向上させ、楽曲に適した発声で歌えるようにする。 ○iPad も利用しながら、歌っている様子を客観的に見られるように映像に録画したり、合唱曲のパート別音源なども活用し、速度や旋律、テクスチャ、強弱、構成など音楽を形作る様々なものに目を向けさせたりと、自ら表現の工夫ができるように工夫させる。 ○それぞれのパートの特徴を理解し、どのように表現したら良いか意見を出し合い、楽曲を創り上げていく達成感を味わえるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○楽譜の読み取りができるようにし、作詞、作曲者の意図を楽譜から理解できるようにするとともに、音楽用語についての理解を深める。 ○楽曲について考えた表現方法について、実際にできる技術を身に付けられるようにする。
------------	--	---

(6) 美術科

【中学校】

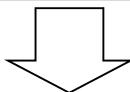
美術科における指導の重点

○表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す。具体的には、①表現方法を創意工夫する、②主題を生み出し豊かに発想する、③心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

現状分析

教科指導上の課題

- 表現の意図と工夫を通して、作り手の自己肯定感を高めるような指導をする必要がある。
- 造形的なよさや美しさを理解した上で、自分の表したい事を見通しをもって制作し完成できるように指導する。
- 自分の考えを的確に言語化し、他者に伝えることが出来る。また、グループワークなどで他者の気持ちや考えを受け止め、自身の感じ方や考え方、表現方法を広げ深めることができるよう指導する必要がある。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1年生	<ul style="list-style-type: none">○小学校図工での技術面での理解・定着について、今までの経験を基に、それを活用する力を育む。○対象物をよく観察し、表現の基礎となる「描写する力」「配色を発想工夫する力」「構成を発想する力」等を定着させることを目標に指導する。○互いの作品の良いところを伝え合うなどの工夫をする。互いの表現の工夫や違いを気づかせ、表現の幅を広げるよう促す。	<ul style="list-style-type: none">○小中連携を生かし、授業のねらいを小・中の指導者が共有し、効果的な指導を行う。○視覚的に分かりやすく記憶に残る導入の工夫、制作に集中して活動できる環境の整備を行い、美術の創造活動に主体的に取り組む意欲を高める。○対話的な鑑賞の授業を通し、自分の感想を発表することで主体的に学び、他の人の発表を聞くことで、いままで気付かなかった視点があることに気付くなどの能力を高める。○ICTを活用したワークシートの作成・提出、調べ学習、プレゼンテーションを行う。
2年生	<ul style="list-style-type: none">○「描写する力」「配色を工夫する力」「構成を発想する力」等を材料や用具、表現方法の特性などから制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって表すことができるよう指導する。○造形的なよさや美しさ、目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めるよう指導する。	<ul style="list-style-type: none">○視覚的に分かりやすく記憶に残る導入の工夫、制作に集中して活動できる環境の整備を行い、美術の創造活動に主体的に取り組み、見方や考え方を深めようとする意欲を高める。○対話的な鑑賞の授業を通し、自分の感想を発表することで主体的に学び、他の人の発表を聞くことで、いままで気付かなかった視点について考察を深める能力を高める。○ICTを活用したワークシートの作成・提出、調べ学習、プレゼンテーションを行う。
3年生	<ul style="list-style-type: none">○「描写する力」「配色を工夫する力」「構成を発想する力」等を材料や用具、表現方法の特性などから、自分の価値意識をもって表すことができるよう指導する。○造形的なよさや美しさ、目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めるなどの活動の充実を図れるように指導する。	<ul style="list-style-type: none">○視覚的に分かりやすく記憶に残る導入の工夫、制作に集中して活動できる環境の整備を行い、美術の創造活動に主体的に取り組み、見方や考え方を深めようとする意欲を高める。○対話的な鑑賞の授業を通し、主体的に学び、他の人の発表を聞くことで、いままで気付かなかった視点について考察を深める能力をより高める。また、美術文化に関する鑑賞では、文化的な視点で作品を捉え、それぞれの国や時代による表現の特質をより一層明確にできるように指導する。○ICTを活用したワークシートの作成・提出、調べ学習、プレゼンテーションを行う。

(7) 保健体育科

【中学校】

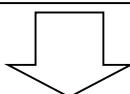
保健体育科における指導の重点

- 12分間走(クーパー走)の実践を通して、年に3回の体力向上月間を計画し、中野スタンダードを基に生徒一人ひとりが自分の目標を定め体力や運動能力向上の達成を目指す。
- 指導方法の工夫改善を図りながら、すべての授業を男女共修で行う。
- 運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて言語活動を充実させ話し合い活動を繰り返し実践することで協働的な学習による学びを大切に、思考力・判断力・表現力の育成を図る。

現状分析

教科指導上の課題

- 生徒が自己の課題を確認し、振り返ることができるよう、Google classroom やスプレッドシートを活用して、振り返りの指導を工夫して行う必要がある。
- 運動が好きで積極的に行動する生徒もいるが、運動への苦手意識があり意欲に欠ける生徒もいるため、準備運動で北中サーキットを導入する。また、Google forms で授業アンケートを行い、より分かる楽しい授業を工夫するために、授業改善を行う必要がある。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1年生	○学習内容を確実に身に付けることができるよう、学習の見通しをもたせ、多様な選択肢から自己決定し、毎時間、振り返りを書かせることで自分の課題を確認させ調整する学習を実現していく。どのように学ぶか(個か協働か)。どのようなペースで学ぶか(学習のデザイン)。何で学ぶか(ICTを活用した多種多様なコンテンツ)。生徒一人ひとりの学びを保証し、指導を継続していく。	○コーディネーショントレーニングを取り入れる。 ○補助運動を工夫し、基礎的な体力の向上に努める。 ○グループ活動を充実させ、意見を交換しながら自分の活動を振り返り、改善していける環境をつくる
2年生	○学習内容を確実に身に付けることができるよう、学習の見通しをもたせ、多様な選択肢から自己決定し、毎時間、振り返りを書かせることで自分の課題を確認させ調整する学習を実現していく。どのように学ぶか(個か協働か)。どのようなペースで学ぶか(学習のデザイン)。何で学ぶか(ICTを活用した多種多様なコンテンツ)。生徒一人ひとりの学びを保証し、指導を継続していく。	○コーディネーショントレーニングを取り入れる。 ○補助運動を工夫し、基礎的な体力の向上に努める。 ○グループ活動を充実させ、意見を交換しながら自分の活動を振り返り、改善していける環境をつくる
3年生	○学習内容を確実に身に付けることができるよう、学習の見通しをもたせ、多様な選択肢から自己決定し、毎時間、振り返りを書かせることで自分の課題を確認させ調整する学習を実現していく。どのように学ぶか(個か協働か)。どのようなペースで学ぶか(学習のデザイン)。何で学ぶか(ICTを活用した多種多様なコンテンツ)。生徒一人ひとりの学びを保証し、指導を継続していく。	○コーディネーショントレーニングを取り入れる。 ○補助運動を工夫し、基礎的な体力の向上に努める。 ○グループ活動を充実させ、意見を交換しながら自分の活動を振り返り、改善していける環境をつくる

(8) 技術・家庭科 (技術分野)

【中学校】

技術・家庭科 (技術分野) における指導の重点

- 技術についての基礎的な理解や技能によって、問題を解決する実践的な資質・能力を育成する。
- 設計や製作などを通じて「技術による問題の解決」を構想しようとする態度を育成する。
- 学習活動を通して、技術の目で問題を見出す力や、主体的に設計・計画する力を育成する。

現状分析

教科指導上の課題

- 小学校からの学びのつながりを意識するように課題を配置し、問題解決に取り組ませる必要がある。
- 「設計・計画をする力」の育成と「技術による問題解決能力」の育成を重視し、生徒に技術の見方・考え方に気付かせることが課題である。
- 習得した知識や技術を活用し、課題解決のための学習活動を繰り返しておこなう必要がある。
- 総合的な問題解決は、カリキュラムの集大成として相応しい内容のものを選定する必要がある。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1年生	<ul style="list-style-type: none">○導入課題の工夫により、技術の見方・考え方を育む。また、興味関心を持続させながら作業を進めていくために、小学校からの学びのつながりを意識するように課題を配置し、問題解決に取り組ませる。○デジタルコンテンツとしてショート動画を用意し、個別の再確認や欠席者へ対応できるようにする。○定期試験前に学習範囲を復習できるスライドを用意する。	<ul style="list-style-type: none">○カリキュラムマネジメントの観点からも、小学校や他教科との関連を積極的に図るようにする。○授業内容に沿ったワークシートを作成し、基礎・基本の定着を図る。○学習記録シートを作成し、授業ごとの振り返りを行う。○製作途中に評価場面を設定し、その後の製作において改善や修正を行い、技術の最適化を目指す。
2年生	<ul style="list-style-type: none">○グループなどで対話する場面、協働の場面を設定し、「対話的な学び」を重視し、生徒同士での学び合い、地域社会との繋がり、先人に学ぶ姿勢にも焦点が当たるようにする。○定期試験前に学習範囲を復習できるスライドを用意する。○「情報モラルテスト」「ICTプロフィシエンシー検試験」などを取り入れ、個々の到達目標を明確にさせ、能力に合わせた支援をする。○デジタルコンテンツとしてショート動画を用意し、個別の再確認や欠席者へ対応できるようにする。	<ul style="list-style-type: none">○単元や題材など内容や時間のまとまりの中で、学習を見通し、振り返る場面を設定し、学習への主体的な取り組みを促す。○生徒が考える場面と教師が教える場面を明確に分けて授業を組み立てる。○内閣サイバーセキュリティセンター制作のインターネットの安全・安心ハンドブックを活用する。○学習記録シートを作成し、授業ごとの振り返りを行う。技能の習得については、自分がかんだコツを言葉で表現させる。
3年生	<ul style="list-style-type: none">○プログラミングの課題において、プロジェクト型の問題解決学習とし、協働的な学びの実現を図る。○デジタルコンテンツとしてショート動画を用意し、個別の再確認や欠席者へ対応できるようにする。○3Dモデルの作成において、「ティンカーキャド」を使用することで、iPadの活用を図る。○定期試験前に学習範囲を復習できるスライドを用意する。	<ul style="list-style-type: none">○技術が果たす役割を、実習を通して感じた事や理解したことに関連づけることで、より理解を深めていく。○クラウド型3D-CADソフトを使用し、家庭学習にも対応させる。○総合実習として3Dプリンタを活用した題材を設定し、技術革新を牽引することができる資質・能力を育成する○学習記録シートを作成し、授業ごとの振り返りを行う。

(8) 技術・家庭科（家庭分野）

【中学校】

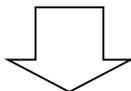
技術・家庭科（家庭分野）における指導の重点

- 実践的・体験的な学習を通して、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術の習得を目指す。
- よりよい生活の実現に向けて、これからの生活を展望し、生活を工夫し創造する資質・能力と態度を育成する。
- 生活の課題と実践など、主体的に取り組む問題解決的な学習内容の充実を目指す。

現状分析

教科指導上の課題

- 小学校からの学びが中学校への学びにつながるように課題を設定して指導する必要がある。
- 生活の中での体験不足の生徒もいる現状があり、基礎・基本的な技能の定着を課題とする必要がある。
- 自ら生活の中で課題を見つけ、その課題解決のため工夫させ、実生活で活用出来る課題の設定が必要である。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1年生	<ul style="list-style-type: none">○3年間の学習の目標を随時確認させる。また、毎時間の学習内容を示し、何を学んでいるか明確にわかるようにする。○机間指導をし、早めにアドバイスをする。○i P a dの活用。教科書のQRコードを読み取り、個々の課題の改善を図る。調べ学習に用いる。	<ul style="list-style-type: none">○長期休業中に衣食住に関する課題により、実践的な態度を養い、自らの生活の中で課題を見つけ、その解決に向け工夫して取り組ませる。
2年生	<ul style="list-style-type: none">○作品製作に入る前に、ミシン練習を行い、一通りの操作のしかたを理解させる。また、ミシンの扱い方の動画を段階毎に視聴し、グループで相互に教え合うなどで技能の定着を図る。○i P a dの活用。教科書のQRコードを使用し個々の課題の改善を図る。	<ul style="list-style-type: none">○毎時間作業記録表の記入、提出により自分の進捗状況や自らの課題を明確にする。また、個別にアドバイスをする。○製作の説明時に、動画や実物見本を見せることにより、理解を深めさせる。○ハード面の充実。ミシン台数の不足など計画的に揃えていくことにより作業効率を向上させる。
3年生	<ul style="list-style-type: none">○毎時間作業記録表の記入、提出により自分の進捗状況や自らの課題を明確にする。また、個別にアドバイスをする。○i P a dの活用。作品例を多く見ることでイメージをつかみ、図案提出の効率化や作業能率の向上を図る。○製作の説明時に、動画や書画カメラで実物見本を見せることで理解が深まり、即作業に取りかかれるようにしていく。	<ul style="list-style-type: none">○昨年度の生徒作品見本(写真)(実物)を提示することで、具体的なイメージを持たせ、製作意欲を高めさせる。○ハード面の充実。ミシン台数の不足など計画的に揃えていくことにより作業効率を向上させる。

(9) 外国語科

【中学校】

外国語科における指導の重点

- 生涯にわたる様々な場面において活躍できる人材を育成するために、外国語でコミュニケーション力を図ることが出来る力の向上に努める。
- 思考力・判断力・表現力等の育成を重視し、ペアや小グループにおける会話やプレゼンテーション、ALT との会話などの学習を通して、主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業を展開する。

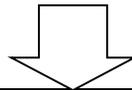
現状分析

区学力調査の結果分析

- 2学年とも達成率が7割を上回っており、基礎的・基本的な学力は概ね定着できていることが分かる。教科の正答率と目標値を比較すると、3年生は8ポイント程度上回った。読むこと・書くことの領域においても目標値を上回っているが、「聞くこと」における定着を図ることが課題である。2年生は、正答率と目標値を比較すると、10ポイント程度上回った。聞くことは13ポイント、読むこと・書くことはそれぞれ8ポイント上回っているが、所有代名詞の単語の知識の問題や対話の場面に応じて疑問文を考える英作文の問題の正答率が低いことが課題である。

教科指導上の課題

- 「聞くこと」の対話文の応答において目標値・区平均正答率を上回ってはいるが、課題が見られた。授業でリスニング指導を継続するとともに、状況を的確に捉え、英語で答える練習をする指導が必要である。(3年生)
- 「基本的な語形・語法」と「場面に応じて書く英作文」に課題が見られたため、教科書の文中の基本的な単語や様々な場面での英作文の指導を充実させる必要がある。(2年生)
- 小学校で学習した内容に関して話すことはできるが、それを文字で表すことに苦手意識を持っている生徒が多い。「話すこと」とともに「書くこと」の指導を行う必要がある。(1年生)



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1年生	○学習内容を確実に身につけることができるよう、生徒の実態に応じた指導(既習事項のまとめ、ワークや端末教材での確認、質問など)ができる時間を授業で確保していく。また、ペアや小グループなどの協働学習を通して、様々な考えがあることを知り、自身の学びを振り返る機会を作る。	○授業の最後10分で、授業内容の振り返りや、質問ができる時間を作り、学習内容の定着を図る。 ○单元毎に復習確認テストや単語テストを行い、基礎的・基本的な力の定着を図る。 ○リスニング、ライティング、ディクテーションの継続的な指導を行い、音と文字の一致を図る。
2年生	○既習事項を使って、新たな課題を解決できるような協働的な活動を充実させる。その際、一人1台端末を使って、班内の情報を共有して、自由に振り返りができるようにする。 ○单元テストの結果を基に、定着が不十分な問題はQubenaを活用していく。	○授業の最初の5分で、既習事項を使った会話活動をし、基礎的な文法事項の定着を図り、活動後発表を聞くことで質問に対する回答例の幅を広げる。 ○单元終了後に单元テストを行い苦手な問題を確認させて改善できるように個々の課題をさせる。
3年生	○ペア活動やretell・パフォーマンステストなど、生徒が話す・聞く機会や活動をする時間を確保する。分かったことについて教え合うことで、学びを深める機会をもたせる。 ○リスニングやディクテーション、ライティングを行い、聞く・書く機会を多く持つ。 ○宿題や授業のまとめでQubenaやnavima等を活用し自ら考える力や学ぶ力を育成する。	○基礎・基本の定着を図るためのスモールステップを踏んだ段階的・継続的な指導を行う。文字と発音のつながりを意識した発音練習を行う。 ○スペリングコンテストを計画的に行い、語彙力の向上を図る。 ○継続的にリスニング問題に取り組み、大意を捉えることや、内容について英語で答える練習を行う。

(10) 特別の教科 道徳

【中学校】

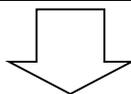
道徳科における指導の重点

- 教育活動全体を通して、生命尊重・人間育成の精神を基盤に人としてのあるべき姿を学ばせ、社会人としてたくましく生きる力を育成する。
- 評価について、自己評価や相互評価、ワークシートの記述などを取り入れ、生徒の学習状況や道徳性に係る変容を捉えて表現するなど、多様な評価方法を工夫する。
- 3年間を見通した指導計画を作成して道徳の授業の充実を図り、保護者や地域と連携して生徒を育成していく。

現状分析

教科指導上の課題

- 道徳的な課題を一人ひとりの生徒が自分の問題として捉え向き合えることができるように、生徒がこれまでの経験を通して考え、自分を見つめる指導を行う必要がある。
- キラリノートへの記入が生徒によって差があるので、自分の言葉で自分の意見を書ける指導をする必要がある。



授業改善プラン

具体的な授業改善案

- 自身の体験や感じ方を生かして、考えを深めたり、自己を見つめたりできるよう、登場人物の心情を理解するだけの指導にならないように努める。
- ICTを活用した発表や意見交換を、グループや全体で行い、意見の共有を図る。
- 質問内容をわかりやすく伝え、考え、書く時間をしっかりと確保する。